

# A project of UNESCO, International Collation Traditional and Folk Medicine

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/5592">http://hdl.handle.net/2297/5592</a>

## ユネスコ・プロジェクト薬用植物の国際比較

第一薬科大学 木村 孟 淳

世界の各地、各民族には多数の動植物が薬用に利用されている。見方を変えれば、眼に見えない敵、病気と戦う武器としての「薬」を持った民族だけが長い人類の歴史を生きぬいて来たということも出来よう。地球上の植物はおよそ35万種と言われているが、そのうち薬用植物は平均して10%程度、おおまかに3万から4万種と推定することができる。このおびただしい数の薬用植物が医薬品開発の素材として期待されることは言うまでもなく、今年でちょうど200年になる19世紀初頭のモルヒネの発見以来、数多くの優れた医薬品が植物・動物から発見され、それらの利用価値が少しも失われない事実を見ても明らかである。

植物を素材として医薬品の探索が行われる方法として、一つは試験法を一定にして、手当たり次第にテストして、網にかかるものを拾い出す「ランダム・スクリーニング」の方法が70年代に制癌作用物質の探索で実施され、数十万という植物を全世界から集め、洗い出してカンプトテシンが発見された。

もう一つの方法は、民族に伝わる医療情報をもとに探索する方法である。中国でクソニンジンから発見された抗マラリア薬アルテミシニン<sup>1</sup>は、中国南部の古典文献の記載をもとにして見出されたものである。このような民族情報は必ずしもどれもこれも信頼出来るものではなく、長い研究期間と莫大な研究費を必要とする医薬品開発の出発点としては、甚だ貧弱な情報でしかない場合が多い。それでも「初めに作用ありき」という点が第二の方法の大きな利点であろう。

中国のように、三世紀ごろからの信頼すべき文献が連綿と引き継がれ、復元もされて現在にも多数残っていて、本草学的な評価がきちんと出来ている場合、対象とする植物の歴史的な永続性が信頼性の大きな根拠になるのであるが、このようなケースはむしろまれであり、他の多くの国、先進国も開発途上国も含めて情報の欠落が目立つのがむしろ普通である。

このような場合、情報の欠落を補うものは単一国、単一民族の情報にだけ着目するのではなく、国境を越え、民族、宗教の垣根を越えて同じ植物あるいは類似の植物が、それぞれどんな使われ方をしているか、現在の情報を集めることは不可能ではない。共通するものがあれば信頼度は増し、共通性が全く認められない応用は信頼性が薄いということができる。

主として言語の問題から、それぞれの地域における薬効用途その他の情報を得ることがきわめて困難である。ごく最近になるまで文字すら持たなかった民族が東南アジアやアフリカ、中南米には多数あり、印刷された書物などは存在しない場合もある。

国際連合教育科学文化機関 UNESCO の組織である東南アジア地域天然物化学ネットワークによる「伝統薬・民間薬の国際比較」プロジェクトはこのような観点から、ソウル大学ハン・ビュンフン教授の提唱により韓国文部省の科学研究費助成金を受け、日本、韓国、中国、香港の4カ国から一名ずつ薬用植物の専門家を集めてワーキング・グループを組織し、1992年11月に初めて香港大学に年に集合して実行に入った。最大の問題は各国の伝統医療で使われる用語の翻訳であり、他国の者が翻訳することは避けよう、自国のものをその国の者が英文に翻訳するということが根本原則とした。また、伝統医学の診断理論を正確に他国のものと比較することは困難で、むしろしない方がよいという考えから、治療に応用される病名を統一して使うことにした。

初めの計画では年に200種のペースで用途の比較、研究歴の調査を行い、原稿を回覧して輪番制のチーフエディターに戻し、編集して "International Collation of Traditional and Folk Medicines, Vol.1-4" (1996, 1997, 1998, 2001) として出版され、一応東北アジアに関しては終了とした。

ユネスコでは、この計画を東南アジア、南アジア、アフリカ、中南米に拡げて行こうという壮大な計画を打ち出した。幾多の困難があると思うけれども、ぜひ成功させてほしいと願うものである。

#### Editors:

Takeatsu Kimura, Daiichi College of Pharmaceutical Sciences, Chief for Vol. 1.

Paul P. H. But, Chinese University of Hong Kong, Chief for Vol.2.

Chng Ki Sung, Chonnam National University, Chief for Vol. 3.

Ji-Xian Guo, Shanghai Medical University, Chief for Vol. 4.

#### Managing Board:

Byung Hoon Han, Seoul National University.

Norio Aimi, Chiba University.

Kin Fai Cheng, The University of Hong Kong.

Guo-Wei Qin, Shanghai Institute of Mteria Medica, Chinese Academy of Sciences.

Publisher:

World Scientific Publishing Co. Pte. Ltd.

P. O. box 128, Farrer Road, Singapore 912805

Fax: 65-382-5919, Tel: 65-382-5663, e-mail: [wspcsl@singnet.com.sg](mailto:wspcsl@singnet.com.sg)

[http: www.worldscientific.com](http://www.worldscientific.com)

## A Project of UNESCO, International Collation of Traditional and Folk Medicine

Takeatsu Kimura, Daiichi College of Pharmaceutical Sciences

Necessary preliminary process for development of new medicines from natural resources is investigation on their information about medicinal uses that peoples have succeeded to their ancestors from years as long as possible. But, occasionally peoples in many places on the earth had no means to record their knowledge. When we estimate the use of an unknown medicinal plant in latter case, comparison and collation of uses of the same plant over geographical, political, race, language religious border will be the most reliable support. As a project of UNESCO, "International Collation of Traditional and Folk Medicine" on more than 800 plant species among 4 countries, China, Hong Kong, Japan and Korea of Northeast Asia. UNESCO has a plan to expand this project for Southeast Asia, Middle east, Africa, South America and all over the world.